

きんもくせい

平成25年 学校教育だより

September 9 第318号

(年4回発行)

編集・きんもくせい編集委員会
発行・埼玉県富士見市教育委員会
電話・049-251-2711 (内線622)

編集目標 人間尊重の教育を求めて



『環境センターの見学』4年生社会科見学

写真提供／鶴瀬小学校

「海」

みずほ台小学校 三年

揖斐 優介

海をおよごうとしたら

田んぼになった

いねをかるうとしたら

また海になった

こんどこそおよごうとしたら

山になった

山をすべろうとしたら

山がきえて 海の中にドボン

サケをつかまえ

はまべにあがると

シーラカンスでおおさわぎ

がばっ

なんだゆめか

授業を通してできる喜びを わかる喜びを

『算数は公式を覚えてさえいいじゃないか。』「自分でやり方を考えるのが何の役に立つのか。」「なぜ色々な方法で考えなければいけないのか。」「計算ができればいいじゃないか。』そう考えてはいませんか。 たしかに計算ができることは大切です。でも、もっと大事なことは、なぜその計算方法を使って解くのかということを理解することです。公式を忘れたらどうなるのか。そこで考えることが止まり、わからないとあきらめてしまうのではないのでしょうか。問題を見て、わからないから、やり方を忘れてしまったからといってあきらめる子になってほしくありません。たとえ答えが間違っているとしても、何とか自分で考えようとする力をつけてほしいと願っています。その力が付けば、公式がわからなくても、忘れてしまっても自分で解決できます。授業を通してその力を付け、自分でできる喜び、わかる喜びを味わわせ、少しでも自信を付けさせたいと考えています。以下、算数の授業実践を紹介いたします。

学ぶ喜びを

諏訪小学校教諭 関根 紀子

問題解決的学習で力をつける 算数の授業は、つかむ→見通す→解く→考え合う→まとめるといいう学習過程で行います。解く場面では、自分自身で図や言葉や式などを使って問題を解決していきます。一つのやり方で出来たら、二つ目、三つ目のやり方を考えていきます。なぜ、いくつもやらなくてはいけないのでしょうか。いくつも考えることで、いろいろな面から考える力がつきます。自分自身の答えを確かめることもできます。



でも、どうしてもわからない時もあります。その時は、個別指導や、わからない児童を私の周りに集めて小集団指導をします。そこでのルールは、わかった時点で自分の席に戻り、続きを考えるといいです。一緒に考えることで児

勝瀬中学校 1年 廣吉 航輝

僕たち、勝瀬中学校の1年生は学校ファームにさつまいもの苗を植えました。畑の土はとてもやわらかくて、立っているだけで足がうまってしまいました。初めての体験だったので、苗をななめに植えることや1本の苗に思っていた以上に水をあたえるなど、学んだことが

さつまいもの苗を植えて

多くありました。たくさんの水が必要なので両手でバケツをもち、学校の水道と畑を行ったり来たりしました。重くて大変でしたが、体力をつけなくてはいけないので良い機会だったと思います。これから、しっかりと育ててほしいし、『フェスタ勝中』で販売して、皆さんに喜んでもらえると思います。



童も安心するようです。「あつわかった!」と言って戻る姿は嬉しいものです。 また、一生懸命考えさせることも同時に、発表し、学び合うことも大事にしています。発表では、「なぜそうなるのか。」と根拠を問うことを大事にしています。子どもたちが考えを発表すると、質問が飛んできます。「どうして図で考えたのか。」「なぜ〇〇になるのか。」「質問以外にも、「よくわからないなあ。」「じゃあこんな時にはどうなるのかなあ。」など、子ども達の何気ないつ

ぶやきが出てきます。そのつぶやきを大切に、子ども達に「なぜそうなるの」「どうなると思う」と返すようにし、素直につぶやける雰囲気づくりを心掛けています。「子どもと先生」「子ども同士」のやりとりを大事に、そして楽しみにしています。そこに学び合いです。自分でわからなかったことも、友達のを聞いて触れたことでわかり、次の解決に生かすことができます。自分で解く力が身に付き、問題の意味・計算の意味がわかると、

わかる授業

できた! わかった!



三角形の面積も自分で求めることができます。最初から、公式を教えるのではなく、習ったことを使って、自分で解き方を考え、公式を導き出す事が大切です。

ノートの書き方・算数コーナーで力をつける

自分が以前にどのような考えたのかを振り返るため、ノートの書き方は、全校で統一しています。学習過程やノートの書き方が身に付くと、次への見通しを持ち易くなります。学年が変わっても、同じ流れで学習ができ、継続的指導ができます。授業をまとめる場面では、まとめの言葉を自分で考えさせるようにしています。はじめのうちは、教師が言葉を付け足すこともあ

りますが、慣れてくると、子ども達自身の考えた言葉でまとめることができるようになります。まとめの言葉は、子ども達一人一人違います。それを見ると、理解度やつまずきがわかります。 また、算数コーナーは、教室内に設け、友達が発表したものや、学習のポイントなどを掲示しています。「あの子のやり方でやってみよう。」などと、解決する際の参考にもなります。ノートや算数コーナーも考えることに役立つのです。

で物を拡大して見せることができます。子どもと同じサイズのものを使って、子どもたちを見て、会話しながら操作できることが一番の強みです。子どもと同じ視線を持つことが理解力にもつながるのでと考えています。 算数の学習で培った力は、算数以外の学習にも使えるようにしていきたいです。考えさせることを通して、あきらめない心を育て、子ども達の「できた!」「わかった!」という喜びを自信につなげたいです。子ども達の笑顔が私の授業のエネルギーです。

特別支援教育

交流会

富士見市特別支援学校 教諭 石川 美香

「〇〇くん、花は、何色でぬるの?」先日、埼玉県立富士見高等学校の高校生との交流会での会話です。

中学部では、毎年、他の学校との親睦を深める目的で、交流会を実施しています。この日のために、歓迎の言葉やプログラムを制作したり、花や輪飾りを、全員で準備してきました。

を拍手で迎え、交流会が始まりました。自己紹介の時はぎこちなかった高校生たちも段々慣れてきて、本校の生徒に話しかけています。〇〇君も、恥ずかしそうに顔をそむけていましたが、少し慣れてきたのか、赤色のクレヨンを指して、「赤色でぬるよ」と答えています。 不思議と、子どもたちは初めて会った者でも、すぐに打

ち解けて楽しく活動できるものです。私たち教師が「ノーマライゼーション」の精神を持って接するなど、頭で考えながら行動するのは違い、生徒たちは、自然と触れ合っているからなのかもしれません。今更ながら、生徒たちから学ぶことが多いと、実感しました。

この交流会で、生徒たちの普段とは少し違った、輝く笑顔を見ることができました。また、高校生が、最後に真剣な表情で活動を振り返る姿は、頼もしく、お互い心を通わせた、温かい交流会となりました。

子どもと同じ視線を持ち、力を付けさせる 考えさせる場面の他に、しっかりと教えることが必要な場面もあります。特に操作方法を身につけることが大切な時、実物投影機を使います。

指導・講師 諏訪小学校校長 大根田良夫

本校の算数学習では、問題解決の学習を通して、自ら問題を解決できる力・子ども達による学び合い、高め合う力の育成に重点を置き、全校で取り組んでいる。 その先頭に立って、リードしている関根教諭の授業の様子から、わかりたい、できるようにになりたいという子どもの学習意欲が高まっていることがうかがえる。また、その願いに応える学習方法が定着してきている。



生きる力をはぐくむ

水谷東小学校保護者 角田 和弘

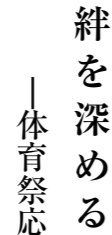
私は我が子たちに、挨拶できる、約束を守る、思いやりを持った人間に成長してほしいと思っ...

というのは決して好きではないが、ひよつとしたら今、日本人に欠けているのは、その部分ではないかと思う...



また、これからの社会を考えると国際人として自分の意見を主張できる人間になっ...

サや菓箱を準備し鳥の親子を観察することもあります。自然と共に生きるというのほ...



絆を深める

—体育祭応援合戦—西中学校

今年度から五月開催となった体育祭。五月のさわやかな気候にも恵まれ、多くの保護...

四月に入学したばかりの一年生も、新しい学年に進級したばかりの二・三年生も、短時間での取り組みにもかかわらず、白熱した演技を披露す...

西中学校体育祭の特色は、

なんとといっても「応援合戦」。このために、わざわざ時間を合わせて来校される方もいらっしゃるほどです。



あいさつのたすき



関沢小学校 教諭 森谷 慎平

「おはようございます！」関沢小の一日は、子どもたちの元気なあいさつで始まります。

関沢小では、今年度「あいさつのたすき」関沢小のきずな」という取り組みを行っています。

一学期は高学年が担当し、校門でのあいさつ、スタンブラリー、ポスターなど子どもたちの主体的な取り組みがありました。



元気いっぱいあいさつは、関沢小の自慢です。

教育課題特集

生きる力をはぐくむ

～学校・家庭・地域から～

四季と共に成長する

針ヶ谷小学校PTA 鈴木 久美子

我が家では、季節の行事を大切にしています。お正月のお祝いに始まり、七草、節分、桃の節句、と色々な行事を家族で行うようにしています。

私自身が、子どもの頃から母に色々な行事を教えてもらい、季節の移り変わりを楽しんできました。

晴らしいと思います。

幸いなことに、お手本となる母が近くにおられますので、わからないことは母に聞きながら、時には一緒に楽しみながら過ごしています。

行事以外にも季節の花を愛でたり、野菜を育てたり、エ

子どもの心の成長と向き合う

勝瀬小学校 学校応援団コーディネーター 羽石 貴裕

地域は、学校応援団や子ども教室、登下校の見守りや防犯パトロールなど、様々な活動を通して子どもたちと向き合っています。

「生きる力」を育む柱には、子どもたちが自ら学び自ら考える力と、他人を思いやる心や感動する心などの「豊かな人間性」を育てていくことにあります。

家庭や地域が市民団体やNPOによる青少年育成活動などに積極的に参加すると、子どもは成長します。

地域の心は成長します。また、地域や中高生・大学生ボランティアと一緒にやり遂げることで、子どもが憧れる人になりたいと思うようになります。



学校の成長は保護者だけでは測りにくいからこそ、発達に応じて生活を送るための学力や体力の基礎を学校が担い、地域では単に守られたり、支援されるだけではなく、子どもが地域との関わりに気付き存在感を持つことで、地域の大人を励ますことにもつながります。

を教えます。練習を重ねるにつれ、学年を越えて団としてのまとまりが深まってきます。

家庭や地域が市民団体やNPOによる青少年育成活動などに積極的に参加すると、子どもは成長します。

学校の成長は保護者だけでは測りにくいからこそ、発達に応じて生活を送るための学力や体力の基礎を学校が担い、地域では単に守られたり、支援されるだけではなく、子どもが地域との関わりに気付き存在感を持つことで、地域の大人を励ますことにもつながります。



東
中

手話体験学習 ～福祉について考える～

富士見市聴覚障害者の会より先生方をお招きし、各クラスで体験学習を行いました。この日教えていただいたのは、自分の名前を手話で表現すること。休み時間にも多くの生徒たちが手話でコミュニケーションをとっていました。



み
ず
ほ
台
小

みんなで元気にラジオ体操

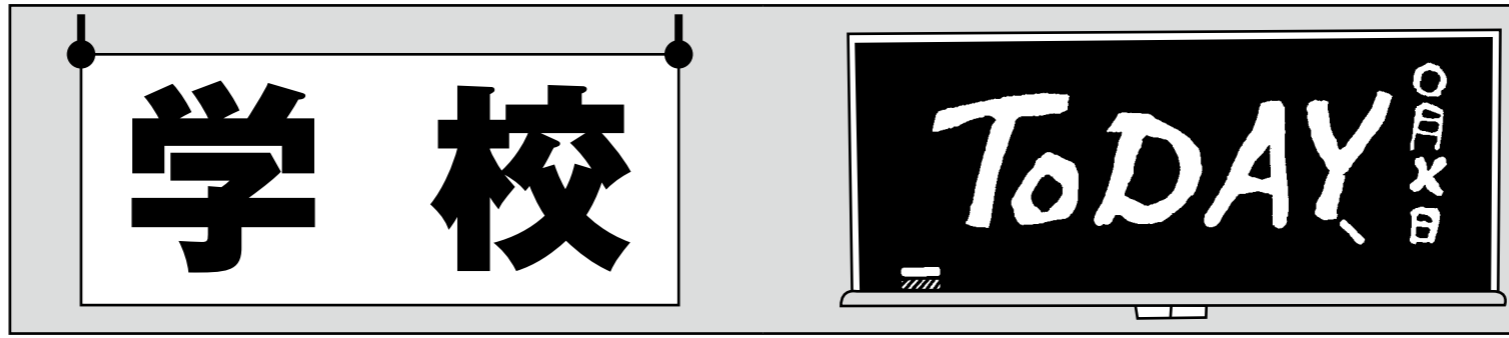
7月の体育朝会では、ラジオ体操をやりました。前に立つ5・6年生の体育委員をお手本に、1・2年生も元気ががんばりました。



西
中

町をきれいに～クリーン作戦ボランティア～

今年で26回目となる「西みずほ台・針ヶ谷クリーン作戦」。みんなで町をきれいにしようと、今年も試験前にもかかわらず、多くの生徒が地域の方々と一緒に取り組みました。



勝
瀬
中

「体育祭閉会式でのひとこま」

各団長の呼び掛けで、みんなが肩を組み合い、「全力校歌」が歌われました。学級・団・学年の隔がなく、勝瀬中がひとつにまとまった瞬間でした。



関
沢
小

「受け継がれていく思いやり」

「ここってどう折るの？」
「ここはね・・・。」
「ありがとう！」
「わからなかったら聞いてね。」
優しさと笑顔あふれた、遊びの大会でした。



水
谷
東
小

「1年生の力になろう」プロジェクト

4月、6年生が1年生の朝の支度を手伝いました。段々と自分のできるようになった1年生。手をかすことから見守るようになった6年生。どちらも大きく成長しました!!

「学校って楽しい」
そんな子どもたちの声が、一枚一枚の写真から伝わってくる。
今、学校では、子どもたちに、「生きる力」を育むため、体験活動や言語活動の充実を力を入れている。仲間や地域の方などとともに、様々な体験をし、実際に触れてみることで、感じたことや考えたことを自分の言葉にして、伝え合うことなどを通して、主体的に行動できるたくましい子どもを育てたいと願っている。
「分かる楽しさ」、「できる喜び」をたくさん味わわせ、自分に自信を持って、学校生活を送らせたい。二学期も、各学校が創意工夫をして、特色ある教育活動に取り組んでいく。



勝
瀬
小

安全を見守りながら・・・

子どもたちの、かけがえのない命を、日々守り続けていただいています。子どもたち一人ひとりに笑顔で接し続けていただく中で、子どもたち一人ひとりの豊かな心の成長まで見守っていただいています。



針
ヶ
谷
小

「ふれあい運動タイム」

金曜日の業前は、校庭中に子どもたちの元気な声がかまします。各学年で鬼ごっこ、50m走、ボール投げ、綱引き、長縄、幅跳びに力いっぱい取り組みます。



諏
訪
小

交通安全教室～自分の身は自分で守ろう～

交通安全教室では、横断歩道の渡り方や自転車の安全な乗り方についてのお話を聞きました。子どもたちの交通事故防止上、一時停止が一番重要な行動です。交通事故に遭わないように学んだことを実行していきます。

おすすめの本

この人を見よ!
歴史をつくった人びと伝4
手塚治虫 ポプラ社

いじめられっ子がマンガで人気者になり、ついには700もの作品を描く…「マンガの神様」手塚治虫についてよくわかります。他にも織田信長やエジソンなどのシリーズがあります。

増えたりしていかないか。
○急に勉強しなくなった、無気力になつたりすることはないか。
以上のような変化が見られた場合には、速やかに各担任を通じて学校に連絡してください。また、学校に連絡できない場合には本室にご相談ください。
(電話) 253-5313

II 市教育相談室より II
いじめの発見ポイント
市教育相談室

このたびの通常国会において「いじめ防止対策推進法」が成立し、本年六月二十八日に公布され、三月後に施行されることになっています。今後、本市においても本法を基本に様々な取組を行っていく予定です。今回は、その一環として、ご家庭で取り組めるいじめを早期に発見できるポイントについてご紹介しますので、ご活用ください。

- 衣服が破れたり、汚れたり、持ち物を失ったりすることが増えていないか。
- ケンカをした、ころんだとか言い、アザやケガをしてきたりしていませんか。
- 金遣いが急に荒くなった、家庭の金品を持ち出すことはないか。
- 急に口数が少なくなっていないか。
- 友だちからの電話で、理由も言わずに家を飛び出すなど、友だちの言いなりになることが増えていないか。
- 友だちが急に遊びに来なくなったり、友だちの話をしなくなったりして、ひとりぼっちで家にいることが多くなっていないか。
- 友だちや先生に対する不満を口にすることが、多くなっていないか。
- 「疲れた、具合が悪い。」と言って、学校を休みたがったり、遅刻・早退が増えているか。

教育委員会だより

おめでとう！全国・関東大会結果

○平成25年度全国大会出場者

《第43回 全日本中学校バレーボール選手権大会》

☆西中学校 バレーボール部(男子)決勝トーナメント進出

- 渋谷 太一(3年) 白井 智己(3年) 嶋田 達也(3年)
- 齋藤 大亮(3年) 鶴岡 統真(3年) 深沢 貴宏(3年)
- 吉川 里希(3年) 渋谷 健作(2年) 齋藤 健太(2年)
- 阿部 翔生(2年) 横田龍之介(1年) 西村隆之介(1年)

○平成25年度関東大会出場者

《第37回 関東中学校水泳競技大会》

☆富士見台中学校

200m, 400m自由形 予選敗退 中山 瞬(2年)

☆西中学校

100m, 200m平泳ぎ 予選敗退 古川 礼穂(2年)

200mバタフライ 予選敗退 山本 駿

《第48回 関東中学校バレーボール大会》

☆西中学校 バレーボール部(男子) ベスト8

- 渋谷 太一(3年) 白井 智己(3年) 嶋田 達也(3年)
- 齋藤 大亮(3年) 鶴岡 統真(3年) 深沢 貴宏(3年)
- 吉川 里希(3年) 渋谷 健作(2年) 齋藤 健太(2年)
- 阿部 翔生(2年) 横田龍之介(1年) 西村隆之介(1年)

☆東中学校 バレーボール部(男子) 2回戦敗退

- 石井 佑季(3年) 寺島 良祐(3年) 嵯峨 大輝(3年)
- 圖師 樹也(3年) 小倉 翔吾(3年) 手塚 陸斗(2年)
- 鈴木 大瑚(2年) 阿部 大儒(2年) 神戸 周馬(2年)
- 郷 秀太楼(2年) 高野 優太(2年) 武井 樹悠(1年)



毎日を楽しむということ

東中学校教諭 天谷 雄大



「先生、一緒にバスケットしよう！」
給食が終わると、体を動かしたくてウズウズしている生徒たちが体育館履きを片手に、

「先生、一緒にバスケットしよう！」
の考え方やスタンスが合わずに一度はクラスが空中分解した。一部だけが一生懸命頑張るクラスではいけない。自分だけが楽しいクラスではない。本音のぶつけ合いで

「速くなった」という前向きな声が一気に増えた。リレのバトンパスを、何度も確認しながら練習する生徒が増えた。仲間と楽しむからこそ創れる想い・努力が日々形に

なっていく、勝ち取った優勝。最後に撮った集合写真には、「全力で楽しみました！」と言わんばかりの多数の笑顔。体育祭の感想にも「このクラスで」という書き出しが多かったことも嬉しい。

行事だけではない、日々の学校生活。何気ないワンシーンも、気持ちの持ち方一つで得られるものが大きく変わる。卒業まで、あと半年。笑顔で卒業式を迎え、大きく羽ばたいたために、日々の積み重ねを楽しむ。

編集日記

いじめ防止対策推進法が公布された。いじめを予防する趣旨のものであり、今後は、施行に伴い地域の実態に応じた防止のための基本方針を各自自治体及び学校等の策定が求められると思われる。

国立教育政策研究所の「生徒指導リーフ」によると小4から中3の6年間に渡る追跡調査の結果から9割以上の児童生徒が被害経験や加害経験を持っていることが分かった。要するに、周囲の大人は、その程度の頻度で起こり得るという自覚を持つことが重要である。

なぜこれほどまでにいじめの問題が深刻なのかをある心理学者に伺ったことがある。小中学校の子どものころに受けたいじめのダメージは、その後の高校、大学や社会人、時には人生において、トラウマとなり退学に至るケースや就職、結婚等にまで影響し続けることとなるのだそう。いじめについては、恐れとおののきを持って対処することが肝要であるとのことであった。

いじめを生まないという未然防止「居場所づくり」の取組を大人が本気で全力で対応することが大事である。集団や社会の一員として自己実現を図っていく社会人へ育つよう、「君を守りたい」のメッセージをしっかりと伝えていきたいものである。
(忽滑谷)